



事例 6

車いすでの移動が楽にできる段差解消

本人家族の希望・要望

(日常生活における不便・不自由な点)

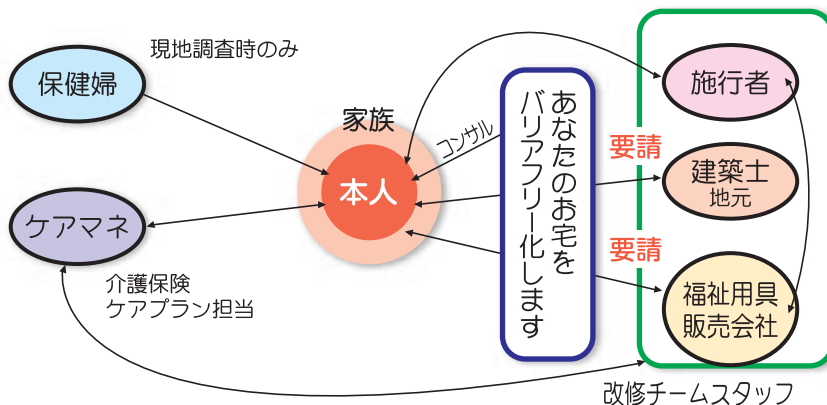
1. できるだけ自宅で入浴させたい。
2. 自分で洗面、歯磨きができる洗面台の取り替え。
3. トイレの介助負担を軽減するため、手すりの取り付けと出入口の巾の確保。
4. 室内間の敷居段差解消。
5. 車椅子で出入りするための出入口として、リビングのテラスサッシ部分の段差解消と、スロープの設置。



これまでの流れ

- 昭和59年脳出血を発症したが、麻痺は軽度で自力歩行できた。
- 翌年家を新築する際、障害が重度化した場合のことはまったく考えていなかった。
- 平成11年、再度入院した病院内で転倒し骨折、車いすの生活となり、家のいたるところがバリアになってしまった。
- 現在は週1回町のデイサービスを利用しているが、玄関からの出入りが困難なので、リビングのテラスサッシから出入りしている。その際必要なスロープを息子が作ってくれたので、どうにか大人2人～3人の力で出入りできる。

住宅改修チーム



家族もまじえて
改修チームスタッフ打合せ

性別／年齢 世帯構成 主介護者 住 宅 病 名 障害の程度 病 歴 介 護 度 身体及び介 護の状況	<p>男性70歳 本人夫婦、息子夫婦、孫2人の6人家族 妻 木造2階建 脳出血 1級：右上下肢機能全廃 昭和59年 脳出血</p> <p>・要介護3 ・デイサービス週1回。様子を見ながら回数を増やしていく予定。(平成12年1月から週2回) ・通院時は民間企業の移送サービスを利用 ・ベッドから車いすへの移乗は介助を要す。 ・補聴器使用。言語の了解がやや不良。 妻の友達が自宅に遊びに来たときは、進んで話すが、若干分かりづらいこともある。話し好きである。 ・デイサービスに来たときは利用者と積極的に話をして笑わせている。みんなの人気者の存在。 ・普段は、午前中は車いすで、午後はベッドで過ごすことが多い。</p>	<p>自立の状況 (共通の項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●寝返り・起き上がり ・一部介助 ●衣服の着脱 <ul style="list-style-type: none"> ・準備を手伝い、一部介助 ●洗面・歯磨き ・介助 ●トイレ <ul style="list-style-type: none"> ・介助(立位保持に若干手助けが必要だが、手すりの位置によっては自分でできることがありそう) ●入浴 <ul style="list-style-type: none"> ・介助(現在は入浴をデイサービスを利用しており、自宅では利用しない) ●歩行 ・介助(リハビリ中) ●移動 屋内・車椅子で一部介助 屋外・車椅子で介助 ●移乗 ・一部介助 ●調理・食事 ・調理は不可、食事は一部介助 ●家事 ・不可
---	---	--

現地調査



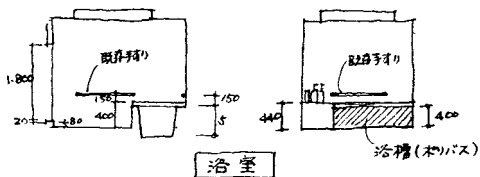
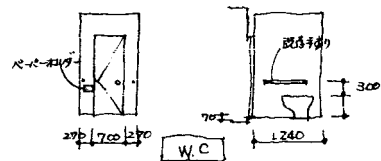
浴室
古い手すりはあったが、不安定で使いづらかった



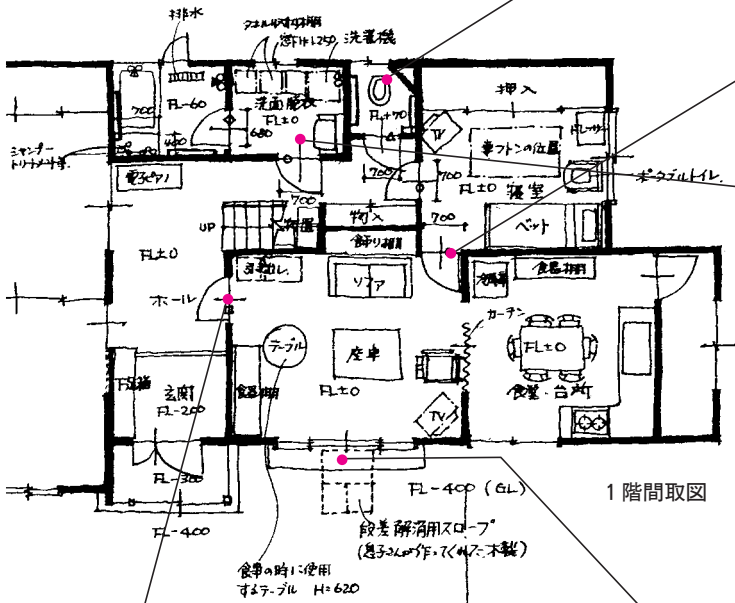
トイレ
入口の段差が車イスを便器に近づけないようにしていた



トイレで実際の動作をためしてみる



本人、家族によるシミュレーション。居間～寝室へ



1階間取図



洗面脱衣室
出入口の開口幅



車イスでは方向転換して横使いしかできなかった



居間～ローカ
敷居の段差



屋外スロープ



デイサービスから帰って来た。大人3人がかりで家の中へ

既存家屋の概要

建築年	昭和60年
階・建	木造2階建
工事範囲面積	浴室、洗面・脱衣室、トイレ、寝室 30.6㎡ (リビング外のスロープ設置 10.9㎡)
所有形態	自己所有

住宅改修支援の流れ（スケジュール）

年月日	本人・家族の状況		住宅改修チームの支援内容と動き		
	状況	内容・要望	住宅改修支援チームの動き		内容
平成11年 12月9日	<ul style="list-style-type: none"> ○昭和59年脳出血発症麻痺は軽度で自立歩行。 ○昭和60年住宅新築 本人の障害が重度化する事は考えていなかった。 ○平成11年6月 入院中の病院にて転倒、硬膜下血腫手術後、右麻痺の悪化により、自立歩行不可能となり、現在は屋内車椅子移動をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主たる介護者は妻で、自宅をバリアフリー化し、少しでも日常動作を自分で行いたい。妻の介護負担の軽減のためにも。 	事前現地訪問調査	行政（県） 行政（町） ケアマネ 福祉用具 販売業者 コンサル	<ul style="list-style-type: none"> ・身体、ADL、介護状況等確認 ・本人・家族の要望確認 ・住宅、移動状況の確認 ・福祉用具についての説明 (以前から所有していたロホクッションの正しい使用方法を知らず、座り心地が良くないと使用してなかった。)
平成12年 1月11日	<ul style="list-style-type: none"> ○先月（12月）訪問時には週1回のデイサービス利用が、今日から週2回の利用 ○車椅子のシートクッションはとても乗り心地がよいとのことで、先月からずっと使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスへの要望 ・家の中で車椅子を自走させることは難しい。また、麻痺側の足をフットレストから下ろして引きずりながら移動してしまうため、しょっちゅう敷居の段差に足をぶつけて痛がっている。 	改修チーム現地訪問調査	ケアマネ 福祉用具 販売業者 施工業者 建築士 コンサル	<ul style="list-style-type: none"> ・改修プランの打ち合わせ ・福祉用具についての説明 ・今後の進め方 ・介護保険におけるサービス利用との連携について
25日	○改修内容について説明を受ける		改修内容説明	施工業者	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの話し合いの内容について息子さんにも説明をする。
2月18日			改修プラン検討会	ケアマネ 福祉用具 販売業者 施工業者 建築士	<ul style="list-style-type: none"> ・改修プランの打ち合わせ ①一番問題の部分はトイレへの出入りにける開口幅の確保と段差解消。 ②予算に関しては、協力金の中で収まる工事を希望していたので、工事範囲と予算のバランスとすることが目標。
25日			段差解消スロープモニタリング		<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの床段差解消について、このままの床を利用し、段差解消スロープが利用できるのか、約2週間ほど、モニタリングを提案。
3月15日		<ul style="list-style-type: none"> ○最終改修プランへの意見 ・敷居の段差解消と、屋外用スロープは当初の計画どおり。 ・洗面所に関しては本人が洗顔や歯磨きを自分で行えるように、出入口引き戸取替え。 ・洗面台も車椅子仕様を採用。 ・実際に動いてもらい、現在の建具枠を上手く利用して立ち上がり、既存の手すりを利用しながら自分で方向転換をして便器に座ることができた。 	最終改修プラン説明		<ul style="list-style-type: none"> ・最終改修プランの説明 ・工事費用確認 ・トイレ床段差解消について結果として、スロープを使うことにより、車椅子で便器の側までアプローチできるようになる。 ・開口部幅は限界まで広げるよりも、本人の肩幅及び妻がトイレの中に入ることができるだけのスペースを確保する。 ・建具枠を握りやすいよう出幅を大きくして握りやすい形状にする。
18日	○工事請負契約		最終改修プラン調整	施工業者	
27日	○着工		○前回の話し合いを基にプラン及び見積書の調整。	施工業者 ケアマネ	
4月17日	○中間確認	<ul style="list-style-type: none"> ○施工途中での確認 ・洗面台は、昇降式洗面器採用現在使用中。(自分で歯磨き洗顔ができる。) ・トイレの開口部の扉の有効巾を広げ、額縁を大きめにすることで、本人が自分で便器の側まで近づき、妻の介助でとても楽に使用できる。 ・屋外スロープをコンクリート製のスロープ設置。以前トイレのモニタリングに使用した木製のスロープも合わせて使いたい。 	工事進捗状況確認	施工業者 ケアマネ コンサル	<ul style="list-style-type: none"> ・工事内容に対し、納まり及び仕上がり等の確認。 ・浴室は福祉用具の納入がこれからのため、工事はこれから。 ・室内間の敷居段差解消については、一部床との段差が5～7mmと結構大きく残っており、再度敷居の面取りを指示。
5月15日	○完成			施工業者	<ul style="list-style-type: none"> ・完成写真
12月12日			完成確認	行政（県） コンサル	<ul style="list-style-type: none"> ・完成状況確認の上、本人及び家族の感想聞き取り

改修プラン



2枚引き込みに取り付け間口幅確保



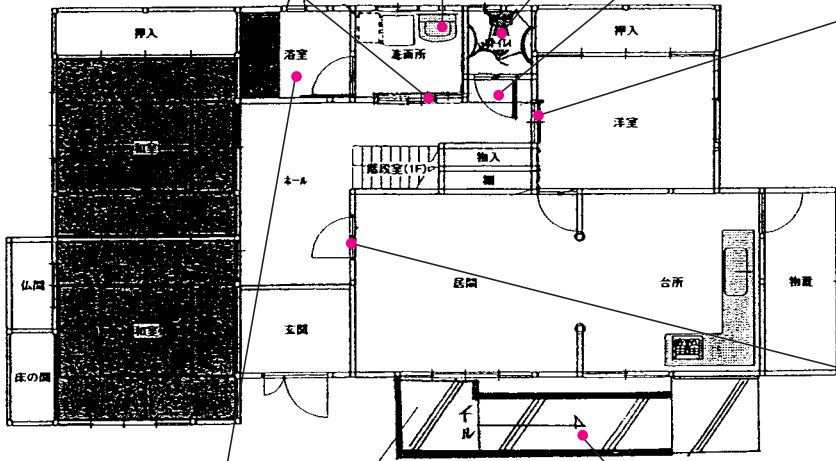
洗面台
昇降機能付き洗面台に取替



入口から車イスで入れるようになったので手すりを安定して使える位置に取付け、自分で排泄できるようになった



トイレ前スロープ
一度モンタリングをした後での完成品



寝室～ローカ
出入口、扉を引き戸に取替、段差解消



居間～ローカ
片開扉用敷居取替、段差解消



新たに手すり取付け



テラス出入口
息子がつくってくれた木造スロープ



スロープ
斜路をゆるく昇りやすいスロープになった。

住宅改修費	
総工事費	1,024,433円
自己資金	24,433円
公的資金	1,000,000円 (事業協力金)
介護保険	利用なし。
その他	日常生活用具の給付事業利用

福祉用具導入 (日常生活用具給付対応)
1. バスチェアB70
2. シャワーベンチU型
3. バス用手すり
4. コンパクトスロープ
5. 木製手すり

改修案の整理（福祉用具含む）

区分	課題(ニーズ)	目標	改修案内容	改修効果	課題
玄関	・車椅子での移動を可能にしたい。	・車椅子で1人で外に出たい。	・居間のテラスサッシ部分の外側に、コンクリート製のスロープを設置。サッシとの段差は木製スロープ設置。	・ 介助軽減 ・ 自分で外に出ることができるようになった。 ・お天気の良い日は、1人で外に出て盆栽に水やりをしている。	
寝室	・敷居の段差に車椅子の前輪が引っかかりやすい。	・車椅子で室内を自由に移動したい。	・一部敷居を撤去し床とフラットの敷居を入れ替える。	・片足走行の車椅子移動でも、前輪が 引っかからなくなってとても楽にできるようになった。	・既存床が、コンクリート製床暖房のため、完全フラットには出来ないが、敷居の面とりを大きめにとる。
洗面・脱衣室	・出入口が狭く、洗面台の前まで車椅子でいけない。	・自分で歯磨き、洗顔がしたい。	・出入口の扉を 2枚引き込み戸 に改修。 ・高さ調整機能付洗面台を設置。 ・洗面台と洗濯機の配置を変更。	・ 出入口幅を広く確保することができた。 ・1人で洗面所に行き、 自分で歯磨き、洗顔 できる。	
トイレ	・床に70mmの段差がある。 ・古い手すりはついてはいるが上手く使えない。 ・出入口が狭いため、介助の妻が中に入るのに苦労している。	・何かにつかまれば立位は可能なので、排尿は自分でしたい。 ・妻の介護負担の軽減	・段差の解消は 木製スロープ を設置。 ・既存の手すりを木製固定手すりに変更。 ・便器背面のサッシ枠に手すり設置。 ・既存片開き扉及び建具枠撤去。建具有効巾800mmの、片開き扉設置。	・小便の場合は1人でトイレまで移動し、車椅子から立ちあがり 一人で出来るようになった。 ・これまでトイレの介助は毎回妻が介助していたが、4回のうち2～3回は介助なしで見守りで大丈夫である。	
浴室	・床の段差が大きく、シャワーキャリーでの入浴は介助するほうが苦しい。	・自宅のお風呂に入りたい。 ・シャワーキャリーで脱衣室から浴室に入りたい。	・床段差はスロープ設置(取り外し可) ・洗い場及び浴槽脇に 手すり取り付け 。 ・浴槽の中にバスタチェアを設置。(体の沈み込みを防ぐため)	・夏季は 自宅お風呂でシャワー を使うことができるようになった。	・右片麻痺のため、健足側から浴槽に入ることはできると思われるが、入浴介助の方法をアドバイス受ける必要あり。

本人・家族の感想

○本人が自分でやると言うのでやらせています。洗顔は自分でできますし、トイレもこれまでは立ち上がりから、方向転換まですべて、私が手助けしないとできなかったことが、ほんの少しの手助けで立ち上がり、方向転換まで自分でできるようになりました。現在、デイサービスで車椅子の操作訓練をしてもらっているので、家の中も自分で行きたい場所に自分で行けるようになると思うとワクワクする。

○家族にとってもトイレ及び浴室の手すりはとてもよい。

○孫たちは洗面台で座って朝シャンしている。

○8月まではデイサービスを週2回にして、時々自宅の浴室を使っている。

○外のスロープを1人で降りて、盆栽の水やりを自分でしている。

○トイレでの排泄も、小便の時は1人でできる。(排便は介助) 洗面、歯磨きも自分でできている。

○本人が犬が好きだったのでペット(犬)を飼った。

家族へのアドバイス

- ・改修工事完了当時は、トイレで立って排尿ができたことや、洗面所でタオルで顔を拭いたり、歯磨きが自分でできたり、家の中を車椅子で移動できるようになったなど、いい事づくめで課題は無かったように見えた。
 - ・2ヶ月後のフォローアップで、トイレでの自立度が増し、1日約4回のトイレ介助が2回でよくなり、自分でできるようになったことで、妻も自信を持ち、毎日午後からパートの仕事に出るようになった。妻の留守中に、横になっていた本人がトイレに行きたくなり、ベットから車椅子に移乗しようとして転倒してしまった。幸い大きな怪我には至らなかったが、改修の話し合いの中で、改修の目標を何処の部分に置き、一つの動作だけを自立させるための改修ではなく、動作の連続性をも検討すべきであったと考える。できれば、ベットに取り付けられる介助用バーを導入しておくことも考えるべきであった。
- 介護保険のなかで福祉用具の導入に対しても、重点を置いて専門スタッフを位置付ける必要がある。

改修後のフォロー

自分でできることが増えると自信がつくし、やる気がでてくる。これからのデイサービスでリハビリをすることで、車椅子の操作が自立していくことや、トイレでの自立等、可能性が広がり奥さんに掛かりの介護負担が軽減できることに繋がるであろう。これからも在宅介護支援センターの担当と密に連絡を取り合いながら、家族の支援にも見守り体制を作っていく必要がある。



改修チームスタッフ
家族から普段の生活状況など聞きとり

改修チームからのコメント

ケアマネージャーから

初めての住宅改修の調整で不安であったが、みなさんの意見でご本人も喜んでいるし、何より奥さんの介護負担が少なくなったことは良かった。

お互いに顔を会わせるのが初めてであったが、話し合いの回を重ねて役割のようなものができて、試しに作ってみる発想ははっきり言ってスゴイ!と思った。この進め方でいいかどうか不安であったが、終わってほっとしたことと、今後の参考にしたい。

施工業者から

今回のような住宅改修に参加するのは初めてのことでしたが、これまで機会があったらかわりたいたいと思っていたのでやりがいはあった。

工事期間よりも話し合う時間がかかることで、施主さんにとっては不安であったと思うが、それぞれの専門の意見を確認してつくることのできることで、作る側も安心して作業ができた。参加できて良かった。

建築士から

在宅介護支援センターの方が連絡調整を取ってくれたので、こまめに連絡を取り合うことができてよかった。初めて住宅改修に参加し、多くの人たちの意見が出され、家族の希望に添うような改修ができたことは本当に良かったし、何より良い経験になった。